

令和6年度

全国学力・学習状況調査の分析結果と今後の取り組みについて

令和6年10月28日

小城市立砥川小学校

4月に行われた全国学力・学習状況調査(6年国語・算数)および質問紙(意識調査)の本校の結果をお知らせします。

#### 【調査結果のポイント】

全国的な傾向として以下の事項が報告されています。本校でも同じ傾向が見られます。

##### 国語科

- 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることはできている。
- 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解することができている。
- 目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるようにするための書き表し方を工夫することに課題がある。

##### 算数科

- 直方体の見取り図や直径、円周の長さ、円周率の関係について理解することはできている。
- 球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことに課題がある。
- 速さの意味について理解することに課題がある。
- 折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを記述することに課題がある。

#### 【本校の全体の正答率について】

国語、算数ともに全体の正答率は、国・県の平均と「ほぼ同じ」です。

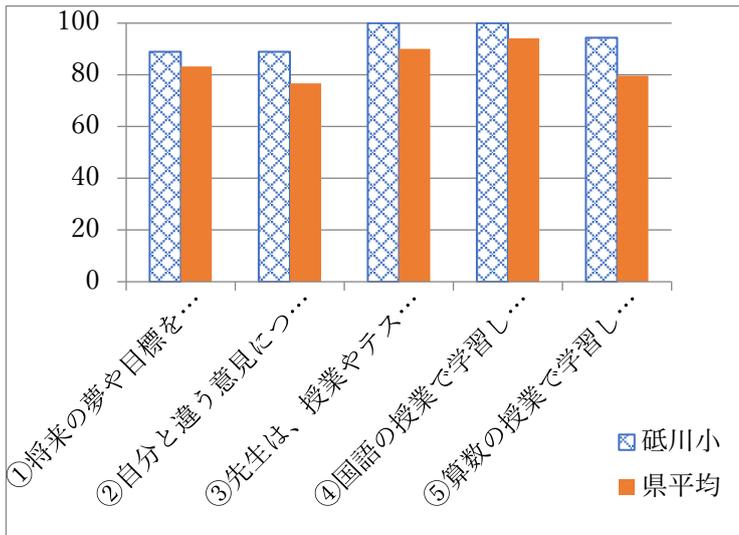
#### 【今後の取り組みについて】

本校では、職員研修で今回の結果を詳しく分析し、今後の授業改善等について話し合いました。学力の向上を図るためには学校での学習だけではなく、ほかにも家庭での学習も大切です。具体的な取り組み・お願いについては、「家庭学習のやくそく」をご覧ください。学習に対する取り組み方や学習方法を工夫することによって、より学力の定着が図れます。本校の取り組みをご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

## ◆生活習慣に関する調査「6年質問紙(意識調査)」

### 【 数値が特に高かった項目 】

	調査の項目
①	将来の夢や目標を持っているか。
②	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思うか。
③	先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思うか。
④	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たとき役に立つと思うか。
⑤	算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えているか。

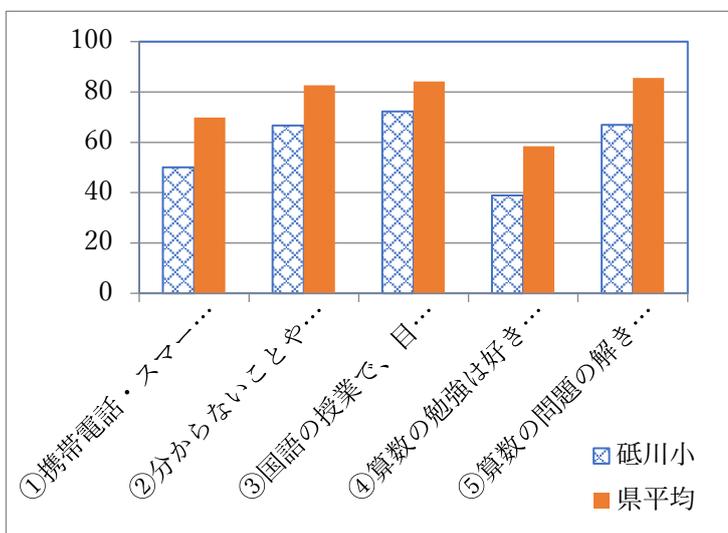


#### 【さらなる向上に向けた取組】

- ①学校教育目標「夢と志をもち…」の具現化に向けて、夢の実現や目標の達成に向かって努力する姿、あきらめず挑戦する姿を今後も称賛していく。
- ②昨年度は県と比べて低い項目だったが、話し合い活動の充実を図る等の改善の成果が表れたと考えられる。今後も継続して取り組んでいく。
- ③個に応じた支援の充実に今後も努める。
- ④⑤生活場面と結び付いた学習課題の設定等の充実をさらに図り、学習意欲の喚起に今後も努めていく。

### 【 数値が特に低かった項目 】

	調査の項目
①	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っているか。
②	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできているか。
③	国語の授業で、目的に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いているか。
④	算数の勉強は好きか。
⑤	算数の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えているか。



#### 【改善に向けた取組】

- ①スマホやタブレットの使い方について、家庭でのルール・約束がなされていない家庭が多い。SNSトラブルから子どもを守るためにもぜひ家庭で使い方について話し合ってもらいたい。
- ②課題解決学習を充実させ、自ら考える授業への改善を図る。
- ③書く活動を多く設定し、書くことへの抵抗感を減らすとともに、どういう工夫をすれば効果的な文章が書けるのか学年に応じたスキルを身に付けるよう指導の充実を図る。
- ④県平均でも50%台と低い但本校はさらに低い結果となっている。⑤の改善に向けた取り組みと合わせて、子どもたちが主体的に楽しみながら学べる授業にできるように指導・支援を行っていきたい。

# ◆令和6年度全国学力・学習状況調査《 6年生 国語科 》

## 全体の概要

- 全体の正答率は、県平均・全国平均とほぼ同じである。
- 観点別にみると、「知識・技能」は県平均とほぼ同じで、「思考・判断・表現」は県平均を大きく上回っている。
- 内容別にみると、「読むこと」は県平均を大きく上回っていて、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」は県平均とほぼ同じである。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<p>【言葉の特徴や使い方に関する事項】</p> <p>◎話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかをみる問題では、県平均・全校平均を大きく上回る。</p> <p>●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことや、文の中における主語と述語との関係をとらえることに課題がみられる。</p>	<p>【言葉の特徴や使い方に関する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 日記等を書くとき、既習の漢字を○字以上使う。</li> <li>• 長い文章は、短文に分ける。</li> <li>• 文章から情景を思い浮かべることができていないので、絵を描いて想像させる。</li> <li>• 読書（物語）を通し、文章を読み取る力を身に付ける。</li> </ul>
	<p>【情報の扱い方に関する事項】</p> <p>○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う問題は、県平均とほぼ同じ。</p>	<p>【情報の扱い方に関する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 今後も情報の関係を様々な方法で整理することで、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりできることを実感できるように指導する。</li> </ul>
	<p>【我が国の言語文化に関する事項】</p> <p>○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付く問題は、県平均とほぼ同じ。</p>	<p>【我が国の言語文化に関する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ある程度定着が見られるため、朝読書の推奨や学年に応じたおすすめの本紹介など、現在の手立てを継続する。</li> </ul>
思考・判断・表現	<p>【話すこと・聞くこと】</p> <p>●資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する問題や、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する問題の正答率が大きく落ち込んでいる。</p>	<p>【話すこと・聞くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• この種の問題文に対する経験値が低い。大問題及び問題文を理解できていないため、大事なところに線を引きながら読み取らせる。</li> </ul>
	<p>【書くこと】</p> <p>●目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題は県平均や全国平均とほぼ同じだが、正答率自体は大きく落ち込んでいる。</p>	<p>【書くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 条件を理解し、自分の意見を書くという問題を繰り返し練習する。</li> <li>• 授業で学習するだけでなく、家庭学習でも自分の考えを書く練習問題に取り組む。</li> </ul>
	<p>【読むこと】</p> <p>◎登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることや人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする問題では県平均・全国平均を大きく上回っている。</p>	<p>【読むこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ある程度定着が見られるため、これまでの手立てを継続する。</li> </ul>

# ◆令和6年度全国学力・学習状況調査 《 6年生 算数科 》

## 全体の概要

- 全体の正答率は、県平均・全国平均とほぼ同じである。
- 観点別にみると、「知識・技能」は県平均とほぼ同じで、「思考・判断・表現」は県平均をやや上回っている。
- 領域別では、県平均と比較して「変化と関係」は大きく上回り、「データの活用」はやや上回っている。「数と計算」「図形」は県平均とほぼ同じである。

観点	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	<p>【数と計算】</p> <p>○問題場面の数量の関係を捉え式に表す問題や、数量の関係を□を用いた式に表す問題は県平均とほぼ同じ。</p> <p>●除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかをみる問題は県平均を大きく下回る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 問題解決の際に、方法の見通しだけでなく、結果の見通しまで考えさせる。</li> <li>• さらに知識・技能を定着させていく必要がある。1より小さい数をかけたりわったりすると積や商はもとの数よりどうなるかなどを生活体験とむずびつけさせながら数量感覚を養う。</li> </ul>
	<p>【図形】</p> <p>◎直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかの問題は県平均を大きく上回っている。</p> <p>●直方体の見取り図について理解し、かく問題は、県平均を大きく下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 三角定規を使った垂直と平行の作図を十分に行うとともに、方眼を使った斜め平行のとり方の習得を「位置の表し方」と関連付けて行う。見取り図を正確にかく練習と復習を行い、さらに知識・技能を身に付けさせる。</li> </ul>
	<p>【変化と関係】</p> <p>○速さの意味について理解しているかの問題では、県平均や全国平均をやや上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 人口密度や速さなど、単位量あたりの大きさが生活の様々な場面の中で生かされていることを実感させながら習得させていく。</li> </ul>
	<p>【データの活用】</p> <p>◎簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理する問題は県平均を大きく上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 今後も様々な資料の見方に触れさせ、データの活用力を伸ばしていく。</li> </ul>
思考・判断・表現	<p>【数と計算】</p> <p>○計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する問題は県平均をやや上回る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 図、式、言葉を連携させて説明し合う「伝えタイム」の実践の成果と考える。今後も伝えあい活動の充実を図る。</li> </ul>
	<p>【図形】</p> <p>●球の直径の長さ立方体の一辺の長さの関係性を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる問題は校内平均・県平均・全国平均とも大きく落ち込んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 問題の意味を正しく理解できていないことで誤答となっている傾向が見てとれた。文意をとらえる習慣が身に付くよう、読書を含めた練習を行う。</li> </ul>
	<p>【変化と関係】</p> <p>●道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題は県平均・全国平均を大きく上回っているが、正答率自体は大きく落ち込んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 条件や問題を正しく読めていないので、下線を引いたり問題場面をイメージしたりする作業を共通実践していく。</li> </ul>
	<p>【データの活用】</p> <p>●折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件にあてはまることを言葉や数を用いて記述する問題は、県平均を大きく下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 答えは求められているものの説明が不十分で誤答となる回答が多くみられた。考察したことを、なぜそう考えたかを根拠を明らかにして他者に分かるように伝えることができるように指導の充実を図っていく。</li> </ul>